

コスト構造がわかる原価計算と管理会計の基本

～コスト構造の理解を様々な業種から見て、経営活動に活かしていく～

景気回復のはっきりとした兆しが見えない中、円高による収益の目減りだけが加速度的に進む不透明な昨今の経済環境の中では、収益性を回復させる王道は足元の原価構造を把握し管理していくことです。企業内のコスト構造をしっかりと把握することにより、コストと収益の関係が明確になり、利益を出すためには何をしたらいいのかがおのずと導き出されます。過度に細かい原価計算の仕組みでも、どんぶり勘定でもいけません。コストに目をつける人がしっかりとコスト構造を理解してこそ初めてコストマネジメントは有効になるのです。メーカーのみしか使わないであろうと思っていた原価計算ですが、管理の立場に立っていただければ、どの業種でも使用してコスト構造を把握する必要があることがわかります。コスト構造がわかれば、管理会計の導入につながり、よりよい経営活動を実践することができます。

本講座では、メーカーに偏らず原価計算の基本からコスト構造の把握方法を学び、経営活動に役立てる管理会計とはどのような思考が必要なのかを学んでいきます。基本から学んでいきますので、経理の方だけでなく、営業や企画の方々も対象となります。

1. イントロダクション

- ・コストマネジメントはなぜ必要か？
- ・なぜコストは下がらないのか？
- ・管理会計はこんな構造をしている。

【事例研究1】数字のセンスが出る

自社製造とアウトソーシングのどちらが有利か

2. 様々な業種の原価を計算してみる

- ・メーカーの原価を分析してみる

【事例研究2】メーカーA社の原価構造とは

メーカーにおける管理会計の基本的なポイントは

- ・サービス業の原価を分析してみる

【事例研究3】サービス業B社の原価構造とは

サービス業における管理会計の基本的なポイントは

- ・小売業の原価を計算してみる

【事例研究4】小売業C社の原価構造とは

小売業における管理会計の基本的なポイントは

3. 原価の仕組み

- ・管理会計の基本である原価の構造的な理解をするには

- (変動費と固定費、見た目からの分解)
- ・変動費と固定費を分けると何が見えるか
(コストを動的にとらえると様々な景色が見えてくる)
 - ・具体的な固定費、変動費の分解方法
- 【事例研究5】** A社、B社、C社の変動費と固定費の分解
- ・製品1個当たりの原価が見えると何がわかってくるのか
4. 現在の原価計算システムの大きな問題点
- ・知らないと損をするかも。販売量が同一でもコストが変わってきてしまう。
 - ・プラスにもマイナスにもなる固定費
- 【事例研究6】** 規模効果とはいったいどういうことか。計算で見てみる
- ・原価構造がはっきりわかる直接原価計算の考え方
 - ・欠点を理解したうえで管理会計に活かしていく考え方
5. 収支トントンのラインを見つけるCVP分析
- ・管理会計の基本中の基本、損益分岐点とはいったい何か？
 - ・損益分岐点を実際に見てみる
 - ・アウトソーシングはコスト削減につながるか？
～CVP分析から見る現在の経済環境下における企業の問題点
- 【事例研究7】** A社、B社、C社の損益分岐点分析
6. 管理会計をもう少しだけ深掘してみる
- ・実務的な原価計算の基本的な流れ
(費目別原価計算→部門別原価計算→製品別原価計算)
 - ・材料費、労務費、経費の計算方法
 - ・製造間接費とはいったい何か？
- 【事例研究8】** 1個1,500円の部品と10個5,000円の部品はどちらが得か
7. 目標の設定 ～ 管理会計の王道
- ・目標の導入は様々な業種で行っていること
 - ・標準原価計算とは目標を持つこと
 - ・目標管理の導入がコスト削減につながる
 - ・ムダの原因分析によるコスト削減
 - ・標準原価計算を負担なく導入するには？
- 【事例研究9】** 標準原価計算の導入効果はどのようなものか

以上